

JapanCraft21の最初のプロジェクトは高度な木組み構法の再生でした。現役の木組み構法の匠たちの多くが引退間近であるにもかかわらず、その技法が若い大工に継承されていませんでした。現在では、木組み構法での建築はごくわずかしが行われていません。80年前、京都に10万軒あった町家は今ではもう4万軒ほどしか残っておらず、それすら毎年減り続けています。しかし幸いなことに、私たちは数年前町家修復を専門に扱う祇園内藤工務店5代目の内藤朋博氏に出会いました。内藤さんは、かつてのような魅力的な木組みの町家を京都に再生させるという情熱、技、そして決意をお持ちでした。そこで、JapanCraft21は内藤さんとともに若い現役の大工に伝統的建築技法を教える小さな塾を開き授業料を支援し、2020年11月1日、私たちは数十年ぶりに釘を1本も使わず町家を建てられる6名の大工の一期生を送り出しました。2021年5月からは、若い左官たちに日本の伝統的な土壁造りを教えるコースを開始し、同年8月には木組みの構法コースにまた新しい生徒が入りました。そして今、若い造園家向けに日本庭園造りを教えるコース開設の準備をしています。

ほとんどの若い職人は週6日働いているため、『心町家塾』では月に2回日曜日に授業を行っています。日本では長らく現場で親方の仕事を見て学ぶという徒弟制度がとられてきました。大変良い方法ながら、技術を習得するには非常に時間がかかるため現在ではすたれてしまい、それに代わる方法はないままでした。そこで、内藤さんとJapanCraft21では熟練した職人1名が3名の生徒に直接教えるという方法を取っています。このカリキュラムで、生徒たちは一つ一つの伝統技法を丁寧に習得していきます。

6名の卒業生は学んだ技法を生かして元の職場で働いています。卓越した技法を持つ大工が増えることは、京都だけでなく日本の将来にとっても大切なことだと考えます。

祇園内藤工務店は、伝統的な町家建築にまもなく着工します。現代の様式に沿いエコに配慮した木組みで作られる町家が、京都に85年ぶりに誕生します。